

2017 年度第 3 四半期決算説明 ネットカンファレンス質疑応答要旨

日時	2018 年 2 月 2 日 17:00～18:00
説明者	コーポレートコミュニケーション部 副部長 IR グループリーダー 吉田 修
説明資料	2017 年度第 3 四半期決算の概要 及び 2017 年度業績予想の概要

Q&A

■モビリティセグメント

Q1. 第 3 四半期決算における PP コンパウンドの販売状況について説明してほしい。

A1. PP コンパウンドの販売についてはグローバルで堅調に推移しました。北米の自動車販売台数は引き続き落ち込んでいますが、SUV やピックアップトラック等、当社が注力している大型車の台数は前年同期比で増加しています。またタイ、中国、インド等での当社 PP コンパウンド販売が好調だったことにより、トータルで前年同期比増販となっています。

Q2. モビリティセグメントにおける PP コンパウンド以外の各事業の動向、及び EPT の競合新增設の影響について説明してほしい。

A2. モビリティセグメントは全般的に販売が堅調に推移しました。機能性コンパウンドではアドマー、ミラストマーとも販売数量が伸びています。機能性ポリマーについてはアペルや TPX が増販となっており、エラストマーについてもタフマーの販売が伸びています。EPT の競合新增設の影響については、一定の市況軟化を 17 年度業績見通しに織り込んでいます。

Q3. スマートフォン生産調整のモビリティセグメントへの損益影響について説明してほしい。

A3. スマートフォン生産調整の影響については、今回発表した 17 年度業績見通しに織り込んでいます。一定の影響は見込まれるものの、それらを織り込んだ上で年初に策定した収益計画を達成できる見通しです。

Q4. アーク買収の目的及び今後の M&A の方向性について説明してほしい。

A4. アークの買収は、アークの持つ設計・試作機能の取得を通じて自動車開発の初期段階から参画し、当社の持つ素材技術を組み合わせることで、顧客へのソリューション提案力を強化することを目的としたものです。またアークは欧州自動車メーカーに強みを持っており、日系メーカーに強みを持つ当社とのシナジーが期待できます。今後の M&A の方向性についても、アーク買収と同様、当社の不足するケイパビリティを補完する形での M&A を中心に引き続き取り組んで参ります。

Q5. アークの連結子会社化が三井化学の連結決算へ反映される時期及び損益影響について説明してほしい。

Q5. 連結決算上は 17 年度第 4 四半期から反映されます。損益影響については精査中であり、今回の 17 年度業績見通しには反映しておりませんが、影響は軽微であると考えています。来年度以降の損益影響については 18 年度計画に織り込み、5 月に対外発表致します。

■ヘルスケアセグメント

Q6. ヘルスケアセグメントの事業動向について説明してほしい。

A6. ビジョンケアについてはメガネレンズモノマーの販売が堅調に推移しています。不織布については、紙おむつの流通在庫調整は完了しており、プレミアム紙おむつの中国向け輸出の好調を背景に当社不織布の販売も堅調に推移していますが、収益面では原料価格上昇の影響を受けています。歯科材料については、足元の販売は前年同期を若干上回ったものの、1Q の販売が一部 16 年 4Q へ前倒しになったことにより、1-3Q 累積では前年同期を下回りました。

Q7. ヘルスケアセグメントの営業利益について、2Q (7-9月)から3Q (10-12月)にかけて増益となる理由について説明してほしい。

A7. ビジョンケアについては安定的に推移しています。歯科材料は販売に季節性があり、2Q は夏季休暇の影響で落ち込みますが、3Q 以降販売が増加するため、ヘルスケアセグメントの増益の主な要因となっています。不織布は販売数量は堅調に推移したものの、原料価格上昇が継続しており、価格改定とのタイムラグにより、引き続き収益を圧迫しています。

■フード&パッケージングセグメント

Q8. フード&パッケージングセグメントの事業動向について説明してほしい。

A8. 販売については全般的に堅調に推移しています。コーティング・機能材については、塗料・接着剤用途等、いずれも販売は前年同期を上回っています。交易面については、原料上昇の影響を受けており、価格転嫁に取り組んでいます。フィルム・シートについては、包装フィルムの販売は引き続き安定的に推移しており、原料価格上昇を受けて値上げを打ち出し、現在交渉中です。産業フィルムについてはイクロスの販売が堅調に推移しています。スマートフォンの生産調整の影響も織り込んでいますが、イクロスの用途はスマートフォン以外にもサーバ用メモリ等、裾野が広いので、今後も堅調に推移すると見込んでいます。農薬については、需要は横這いから微増程度となっていますが、当社の販売は海外を中心に前年同期比で増販となっています。今後新規原体の上市に向け、研究開発費の増加が見込まれますが、海外を中心とした拡販でコスト増加を吸収し、収益性を維持しつつ、上市後のさらなる拡大に備えて参ります。

Q9. フード&パッケージングセグメントの営業利益について、2Q (7-9月)から3Q (10-12月)、及び4Q (1-3月)にかけての動きについて説明してほしい。

A9. 2Q から3Q にかけて約 10 億円の減益となっていますが、農薬が不需要期に入ることによる販売の減少が主な要因です。また 3Q から4Q の増益については、逆に農薬が需要期に入ることによる販売増が主な要因です。

Q10. 農薬の新規原体プロフアリニドの上市計画及び業績への貢献度について説明してほしい。

Q10. プロフアリニドは 2020 年度の上市を計画しています。業績への貢献度については、以前より農薬事業は 2022 年度までに売上高を 2 倍にすることを目指しており、その中でプロフアリニドは主要な成長ドライバーになるものと見込んでいます。

■基盤素材セグメント

Q11. 基盤素材セグメントの営業利益について、2Q (7-9月)から3Q (10-12月)、及び4Q (1-3月) にかけての動きについて説明してほしい。

A11. 2Q から3Q では 65 億円の増益となっていますが、この内半分程度は定修有無による差です。残りはフェノール市況の改善、及び原料価格上昇に伴う在庫評価益等によるものです。3Q から4Q の 16 億円の減益については、石化マージンの縮小や修繕費のずれ込み等を一定程度織り込んでいます。

Q12. フェノールの動向及び今後の市況見通しについて説明してほしい。

A12. 17 年度前半は、安価な米国品の流入により中国市況が低迷していましたが、ハリケーンの影響の他、Shell が米国のフェノールプラントの停止を発表したこと、中国向け輸出へのアンチダンピング税適用の可能性等により、市況は正常化してきています。またフェノールの需要は、川下のポリカーボネートの好調、及びフェノールを原料とする製法を用いたカプロラクタムのプラントが新たに立ち上がったこと等を背景に堅調に推移しており、市況も今後安定的に推移していくと見込んでいます。

Q13. TDI の4Q 以降の市況見通しについて説明してほしい。

A13. 足元は供給サイドのトラブル等を背景に 4,000\$/t を超える水準が継続していますが、今後はトラブル解消に伴い市況は沈静化していくものと見込んでいます。

Q14. 主要製品の稼働率を教えてください。

A14.	クラッカー	3Q : フル稼働	4Q : フル稼働
	ポリオレフィン	3Q : フル稼働	4Q : フル稼働
	フェノール	3Q : フル稼働(定修を除く)	4Q : フル稼働
	P T A	3Q : 国内 80%程度	4Q : 国内 80%程度
	T D I	3Q : フル稼働	4Q : フル稼働

■ 全社

Q15. 原料価格上昇が各事業に与える影響について説明してほしい。

A15. 国内ポリオレフィンや包装フィルムについては、原料価格上昇を受け、現在価格改定に取り組んでいます。PP コンパウンドの価格は原料リンクフォーミュラとなっており、時期ズレは発生するものの、原料価格上昇は販売価格へ反映されます。不織布についても原料価格をベースに価格改定を行っており、同様に時期ズレは発生しますが、販売価格に反映されます。またオレフィンについては、春以降多くのクラッカーが定修を予定しており、18 年度上期は需給がタイトな状況が続くと見えています。但し下期以降は北米のシェール由来のクラッカーが立ち上がる影響を注視していく必要があり、これらを 18 年度の収益計画に織り込み、5 月に対外発表致します。

Q16. 17 年度第 3 四半期決算において、固定費が前年同期比で増加している要因について説明してほしい。

A16. 全体で固定費が前年同期比で 92 億円増加していますが、この内、基盤素材セグメントの 25 億円の増加は大部分が前年度との定修規模の差によるものです。成長 3 領域についても一部在庫固定費等の一時的な要因が含まれており、研究開発費等の資源投入の実質的な増加は、全体の半分程度となっています。

Q17. 第 3 四半期決算における投資キャッシュフローの 17 年度見込が、第 2 四半期決算時点の見込から 180 億円増加しているが、アークの買収額が 300 億円程度であることを考慮すると、他で減少していることとなる。当初見込より大きく減少している具体的案件はあるか。

Q17. 大型案件で減少しているものは特にありませんが、中・小型の合理化投資等を多く計画しており、それらの時期ズレ等が主な減少要因です。

Q18. 研究開発費の 4Q (1-3 月) の見通しについて説明してほしい。

Q18. 4Q も概ね 1-3Q と同様の傾向となる見通しです。